独裁者 (映画)

『独裁者』(どくさいしゃ) または『チャップリンの独裁者』(原題: The Great Dictator) は、1940年に公開したアメリカ映画で、チャールズ・チャップリンが監督・製作・脚本・主演を務めた。上映時間 124分

概要

チャップリンが、当時のドイツ国の指導者で、オーストリア併合やポーランド侵攻、ユダヤ人虐待などを行ったアドルフ・ヒトラーの独裁政治を批判した作品で、近隣諸国に対する軍事侵略を進めるヒトラーとファシズムに対して非常に大胆に非難と風刺をしつつ、ヨーロッパにおけるユダヤ人の苦況をコミカルながらも生々しく描いている。

1940年10月15日にアメリカ合衆国で初公開された。当時のアメリカはヒトラーが巻き起こした第二次世界大戦とはいまだ無縁であり、平和を享受していたが、この映画はそんなアメリカの世相からかけ離れた内容だった。

あらすじ

映画は第一次世界大戦における戦場の場面から始まる。チャップリンは、架空の国トメニアの陸軍重砲部隊に所属する無名の二等兵(以下、役名を「床屋のチャーリー」とする)として登場する。前線で味方とはぐれた床屋のチャーリーは負傷した士官のシュルツを救出するとともに、シュルツが所持している重要書類を本国に届けるべく飛行機で飛び立つが、二人の乗った飛行機は燃料切れにより墜落してしまう。墜落を生き延びた二人は友軍に重要書類を届けようとするも、トメニアがすでに降伏していたことを知り大いに悲しむ。

一方、床屋のチャーリーは墜落のショックで記憶を失い、以後の20年を病院で過ごすことになる。この20年の間にトメニアは政変が起こり、アデノイド・ヒンケル(チャップリン:一人二役。なお、床屋のチャーリーと顔が似ているのは「偶然」である)が独裁者として君臨し、内務大臣兼宣伝大臣ガービッチ(ヘンリー・ダニエル)と戦争大臣ヘリング元帥(ビリー・ギルバート)の補佐を受けつつ、自由と民主主義を否定し、国中のユダヤ人を迫害した。

床屋のチャーリーは病院を抜け出し、ゲッターにある自宅に戻ってくる。しかし、本人は20年の時間の経過を理解しておらず、ほこりが積もった理髪店のありさまに呆然とする。彼はヒンケルの手先である突撃隊が自分の店の窓にペンキで塗った「ユダヤ人のレッテル」を消そうとして、突撃隊に暴力を振るわれる。現在の政治状況について何も知らない床屋のチャーリーは突撃隊に反抗したところ、大勢の突撃隊に私刑を受け、吊るし首にされようとしたが、かつて命を助けたシュルツが偶然に通る。

シュルツはヒンケルの信頼も厚く、今では突撃隊長となっていた。床屋のチャーリーがユダヤ人と知って驚いたシュルツであったが、以前助けられた恩から、突撃隊に床屋のチャーリーと彼の恋人であるハンナに手を出さないよう部下に命じた。

ヒンケルはオーストリッチ侵略を企て、ユダヤ系の金融資本から金を引き出すため、ユダヤ人への抑圧政策を緩和した。急に「人間らしく」なった突撃隊員たちを目の当たりにして、ゲッターの住人はヒンケルが自分たちに市民権を返してくれるのではないかという淡い期待を持った。しかし、資金援助を断られたヒンケルはユダヤ人に対して怒りを露わにし、シュルツにゲッターを襲うように命令する。これに対し、シュルツはユダヤ人迫害は党の利益にならないと反対したため、ヒンケルは落胆しつつも彼をすべての役職から解き、強制収容所にぶち込んでしまう。そして、ラジオ放送においてユダヤ人への怒りを露わにした演説(?)を行い、ユダヤ人迫害を再び強化する。

シュルツが失脚したことを知った突撃隊は、床屋のチャーリーのせいだと思い込んでゲッターへの襲撃を行い、床屋のチャーリーの店は破壊されてしまう。これらを受け、ハンナは隣国オーストリッチへの亡命を思い立つ。強制収容所から脱出したシュルツはゲッターに逃げ込み、ヒンケル体制の転覆を計画したが、事前に発覚して床屋のチャーリーとともに捕まり、また強制収容所に送り込まれてしまう。また、ハンナと彼女の両親ら床屋のチャーリーの近所の人たちはオーストリッチへ亡命同然に避難をし、オーストリッチでヒンケルに迫害されない新たな生

活を迎えようとしていた。

ヒンケルとナパロニは、オーストリッチ侵攻で争い、激しい交渉を繰り返す。しかし、世界の皇帝として君臨する野望を抱くヒンケルはオーストリッチへの侵略を諦めていなかった。ヒンケルのオーストリッチ侵略計画は、近隣国バクテリアの独裁者であるベンツィーノ・ナパロニによって反対され、2人の独裁者の間で激しい交渉（および食べ物を使った喧嘩）があり、両者はいったん妥協するが、ヒンケルは妥協を反故にして遂にオーストリッチ侵攻を決行した。オーストリッチに脱出していたハンナたちは再びヒンケルの支配下に置かれ、深い悲しみと絶望の淵に追い込まれることになった。

シュルツと床屋のチャーリーはトメニアの軍服（ナチスの鉤十字に似せた双十字が特徴。英語の"double cross"には「裏切り」の意味がある）を着て、強制収容所から逃げ出した。このとき、床屋のチャーリーの外見がヒンケルにそっくりだったこと、かつてヒンケルに重用されていたシュルツを従えていたことから、将兵たちは床屋のチャーリーを本物のヒンケルと間違えてしまった。

逆にヒンケルは侵攻に備えて、狩猟旅行を装ってオーストリッチ国境付近で単身待機していたところを、脱走した床屋のチャーリーと間違えられて配下の兵士に逮捕されてしまう。

床屋のチャーリーはヒンケルと間違えられたまま、トメニア軍に占領されたオーストリッチの首都へ連れていかれる。ガービッチが演説を行い、言論の自由や民主主義を否定し、ユダヤ人や黒人は劣った民族であるとして「ヒンケル」にただ服従せよと迫る。

それに続いて演台に立った床屋のチャーリーは、自由と寛容、人種の壁を越えた融和を訴え、ガービッチとは全く逆のヒューマニズムに基づく演説を行う。兵士たちの拍手喝采の中、チャーリーは絶望に泣き崩れるハンナにラジオを通じて語りかける。希望を感じさせながら物語は幕を閉じる。

キャスト

トメニア国の独裁者アデノイド・ヒンケル、ユダヤ人の床屋：チャールズ・チャップリン

ハンナ：ポーレット・ゴダード

バクテリア国の独裁者ベンツィーノ・ナパロニ：ジャック・オーキー

内相兼宣伝相ガービッチ：ヘンリー・ダニエル

シュルツ中佐：レジナルド・ガーディナー

戦争相ヘリング元帥：ビリー・ギルバート

ジェケル：モーリス・モスコヴィッチ

ジェケル夫人：エマ・ダン

マン：バーナード・ガーシー（英語版）

アガー：ポール・ワイゲル

ナパロニ夫人：グレイス・ヘイル

バクテリア国大使：カーター・デ・ヘイヴン

ユダヤ人の床屋の客：チェスター・コンクリン

総統付床屋：レオ・ホワイト

突撃隊員：ハンク・マン、パット・フラハティ

ヒンケルの秘書：フローレンス・ライト

コンパクトパラシュートの開発者：シグ・アルノ

ユダヤ人の果物屋：ハリー・シーメルス

彫刻家：ジーノ・コラード

床屋の客：トーベン・マイヤー

刑務所の衛兵：リチャード・アレクサンダー